

序 文

我が国の、いや世界の宇宙開発の最大の課題の一つが、輸送系の将来であることに異論はなからう。また将来の輸送系にとってのキーワードが再使用であり、その含意は輸送コストの劇的な軽減と信頼性の向上であることにも異論はなからう。

しかし、この先議論は渋滞する。一つは、このようなインフラを必要とする上部構造（需要）に今一つ説得力が無いことである。ある種の無条件インフラ先行論が受け容れられるかどうかは鍵であろう。もう一つは、実現すべきシステムに統一的なイメージがないことである。その大きな理由の一つに必要先進技術（特に推進系）に関する蓄積が決定的に不足していることがある。

この報告書は、将来輸送系の有力な構成要素となり得る空気吸込式エンジンについて、具体的に積み上げられた完成度の高い事実を示すものである。理工の連携による科学衛星ミッションの遂行とは別に、営々と成果を挙げてきたこの研究は格別の評価に値する。

昨今のように、俄に産学連携と声高に叫ばれても困る。我々はとっくに着実な形で実施していたのである。

新機関という新たな土壌を得て、本研究が牽引車となって将来輸送系に新たな展開が得られることを期待する。

宇宙科学研究所
所 長 松尾 弘 毅